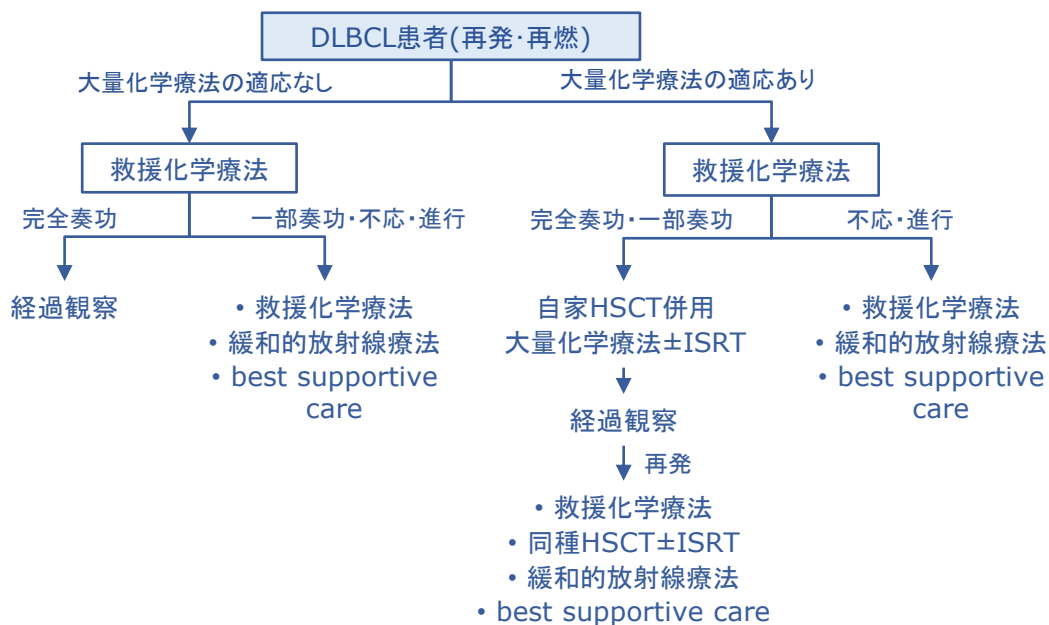


# びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (diffuse large B-cell lymphoma : DLBCL)

- びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (DLBCL)とは、悪性リンパ腫の種類の一つで、リンパ球の中のB細胞から発生する非ホジキンリンパ腫の中では最も頻度が高い。
- 初発時は、リツキシマブと化学療法を併用するR-CHOP療法(リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、プレドニゾン)を実施することが標準的である。再発・再燃DLBCLに対しては、救援化学療法により奏効が得られる場合には、自家造血幹細胞移植(自家HSCT)併用大量化学療法を実施することが推奨される。自家HSCTの適応とならない患者あるいは二次化学療法が不応・進行であった患者については、さらなる救援化学療法等の実施が考慮される。
- 造血器腫瘍診療ガイドライン2018年版補訂版によると、救援化学療法間の優劣は明らかではなく、ガイドラインに記載されている救援化学療法のいずれかが選択されるとある。
- ポラツズマブ ベドチンは救援化学療法のひとつであるベンダムスチン及びリツキシマブと併用して使用される。投与対象としては臨床成績等から「自家造血幹細胞移植の適応とならない」再発又は難治性のDLBCL患者が想定される。

図1: DLBCLの治療アルゴリズム 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018年版補訂版(一部省略)



## 救援化学療法

DHAP療法(DEX, CDDP, AraC)(+R)

(R-)ESHAP療法(mPSL, ETP, AraC, CDDP)

(R-)ICE療法(IFM, CBDCA, ETP)

CHASE(R)療法(CPA, AraC, DEX, ETP)

Dose adjusted(DA)-EPOCH(-R)療法(ETP, PSL, VCR, CPA, DXR)

MINE療法(MIT, IFM, メスナ, ETP)

GDP療法(Gem, DEX, CDDP)

DEX: デキサメタゾン, CDDP: シスプラチン, AraC: シタラビン, R: リツキシマブ, mPSL: メチルプレドニゾン, ETP: エトポシド, IFM: イホスファミド, CBDCA: カルボプラチン, CPA: シクロホスファミド, PSL: プレドニゾン, VCR: ビンクリスチン, DXR: ドキソルビシン, MIT: ミトキサントロン, Gem: ゲムシタビン

## 略語一覧 (Abbreviations)

略語	英語名称	日本語名称
DLBCL	diffuse large B-cell lymphoma	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫
HSCT	hematopoietic stem cell transplantation	造血幹細胞移植
ISRT	involved site radiation therapy	病巣部放射線療法

- 救援化学療法: 造血器腫瘍において再発・再燃した後の化学療法。
- 奏効 (response): 化学療法に反応すること。
- 同種HSCT (allo HSCT): ドナーからの正常な造血幹細胞を移植する。患者の体内でドナーの白血球が免疫反応をおこすため、GVHD(graft-versus-host disease : 移植片対宿主病)が生じるが、GVL (graft versus leukemia: 移植片対白血病)効果により患者の白血病細胞も攻撃するため、治癒等が期待できる。
- 自家HSCT (Auto HSCT): あらかじめ採取保存しておいた自己の造血幹細胞を移植する。自己の細胞であるため、GVHDは起こらないが、GVL効果はないため、再発率等が高いとされる。